

自己評価表からの改善案

児童発達支援

評価機関

2024年4月～2025年5月

川村 ルミ子

環境・体制整備

③生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。

また、事業所の設備等は、障害の特性応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮がなされているか。

- ・保護者には入所前に事前に環境設備等の説明をしている。必要に応じて職員が共通認識を持ちながら、快適に過ごしやすい場所を目指している。

⑤必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。

- ・落ち着かせる場所が必要。1つのスペースで遊ぶのは難しいという意見があった。必要に応じて部屋や場所の使用を認める環境になっている。

状況によって空間を住み分けしパーソナルスペースを確保している。

関係機関や保護者との連携

③①地域の児童発達支援センターと連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言を受ける機会を設けているか。

- ・今後、必要に応じて機会を検討していく。

③④家族の対応力向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント

- ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供を行っているか。
- ・今後、保護者に確認し必要があれば開催を検討していく。